



No.16 / July, 2011

# さつきの丘だより

竹村内科・腎クリニック通信

〒322-0029 栃木県鹿沼市西茂呂 4-46-3

透析センター編

Phone: 0289-60-7577 · Fax: 0289-60-7578 · URL: <http://take2002.on.arena.nc.jp>

## ●食中毒に注意

今年、病原性大腸菌による食中毒事件が、騒がれています。今から15年前、1996年、大阪でカイワレダイコンについていた病原性大腸菌(O-157)により、10000人をこえる大規模食中毒が発生して、小学生2人が亡くなってしまいました。その後も、年間1000人以上の食中毒患者が発生し続けているのです。今年の事件、まずは福井県と富山県の焼肉チェーン店で、なまの牛肉(ユッケ)をたべたお客さんに食中毒症状がみられて、病原性大腸菌O-111が検出されました。不幸なことに、お年寄りや子供さんなど、数人が亡くなってしまいました。

ドイツでは、5月にO-104という種類の大腸菌がみつかりました。もやしについていた腸管出血性大腸菌によって、4000人近くの感染者が発生して、数十人が死亡した大事件です。病原性大腸菌にはいくつも種類があるのですが、O-157、O-111、O-104は、ベロ毒素を産生する、もっとも毒性の強い菌種です。病原性大腸菌は、おもにウシの腸のなかに住んでいますが、ウシはまったく平気です。人間の口にはいると、重病をおこします。肉の表面についた菌が原因になります。ステーキや焼肉は、表面を焼けば問題ないのですが、ハンバーグは肉が練りこまれるので、中まで75度以上に確実に加熱しないと、だめです。野菜の表面の場合は、うすめたキッチン・ハイターに10分くらいつけた



り、ふつうの水道水に1時間つけるだけでも、塩素のはたらきで殺菌効果があります。弱い大腸菌の感染症は、鹿沼でもおこっているのです。発熱や、ひどい腹痛をとまなう下痢、特に血便がみられたら、かならず医療機関を受診してください。食中毒予防の三原則は、食中毒菌を「付けない(適切な処理)、増やさない(冷蔵)、殺す(加熱・殺菌)」です。暑さのきびしい毎日です。熱中症・食中毒など、十分お気をつけ下さい。

## ■防災訓練

5月25日に、防災避難訓練を行いました。3月11日の東日本大震災をふまえて、施設全体が参加しました。地震と火災を想定して、透析患者の会「竹村腎友会」のみなさんも協力してくれました。透析途中で大地震があった場合、まずふとんをかぶって体を保護し、ベッドにつかまって転落しないようにして、最初のゆれがおさまったら、透析回路を切断して「離脱」します。透析患者のみなさんも、はじめは少し緊張していましたが、透析スタッフが順番に回路処理をおこなって、館内放送と職員のおよびかけにしたがって、建物の外に避難しました。あくまで訓練ですが、実際の手順を確認できて、とても有意義でした。腎友会が作成した立派な写真集を、外来と透析の待合室にいただいています。ぜひごらんになってください。ウラ面にも、訓練の様子を掲載します(竹村腎友会提供)。

ウラも見てね



# 学会だより

6月17日～19日の3日間、横浜みなとみらいの、「パシフィコ横浜」で、第56回日本透析医学会総会が開催されました。竹村内科からは、4題の発表をしました。「カプラ洗浄と接続工程での高度な菌低減化を目指して」(大瀧陽二)、「透析中の

頭痛で発見され3日間の保存的経過観察のみで急速に消失した急性硬膜下血腫の一例」(根本修)、「内シャント造設術前・術後を通じたチーム管理の試み～統一性のあるシャント管理を目指して～」(坂本茂美)、「維持透析症例のRLSおよび全身掻痒感に対するプラミペキソールの効果」(根本遵)です。たくさんの方が参加があり、熱心な質疑応答がありました。



## さつき書評

[エッセッシャル版]

### 「マネジメント基本と原則」

P.F. ドラッカー (ダイヤモンド社)

大学生のころ、選択授業のレポートの課題が、この「マネジメント」という本でした。作者のP.F. ドラッカーは、現代経営学とマネジメントの父と言われる社会学者です。その当時は、あまりまじめに読んでいなかったのですが、TUTAYAの注目書籍の欄で2度目の出会いを果たしたため、購入しました。「もしドラ(もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら)」(※2010年のベストセラー)という本の中で紹介されて、再び注目されています。それはさておき、内容を読んでみると中々に考えさせられるもので

した。本文に「我々の事業は何か」との問いがあります。わたしの答えとしては、「我々の事業とは医療でありそれは患者さんの病気を治すことである」と真っ先に浮かびますが、この本によると「自らの事業は何かを知ることほど、簡単なことはないと思われるかもしれない。鉄鋼会社は鉄を作り、銀行は金を貸す。しかし実際には、『われわれの事業は何か』との問いは、わかりきった答えが正しいことはほとんどない」とあります。「企

業は自分が売りたいものを作るのではなく、顧客が求めるものを創造するのである」、「人材は最高の資産である」など、かずかずの名言がちりばめられています。フルバージョンの「マネジメント」は、上・中・下の3分冊ですが、1000ページ超の大著で、マネジメントのバイブルです。本書は要約版ですが、一読後、ちょっと価値観が変わるかも？(ぐっちー)

